三次市教育委員会会議録

１．日　　時　　平成２６年８月１８日（月）
開会　午前　　９時００分
閉会　午後　　６時３０分

２．会　　場　　みよしまちづくりセンター　２階　会議室

３．出席委員　　委　員　長　沖　田　　稔
委　　員　小 根 森 直 子
委　　員　藤　原　博　巳
委　　員　土　井　純　子
教　育　長　児　玉　一　基

４．出席職員　　教 育 次 長　白　石　欣　也
学校教育課長　稲　倉　孝　士
教育委員会事務局付課長　出　口　康　子

５．参考人　　三次市教科用図書採択地区選定委員会

６．議事日程
（１）議案第２１号　平成２７年度使用三次市教科用図書採択地区教科書の採択について（非公開）

学校教育課長　ただいまから教育委員会会議を開会する。委員長の挨拶をお願いする。
沖田委員長　―挨拶―
学校教育課長　委員長に進行をお願いする。
沖田委員長　それでは，これから議事に移るが，本日の議題のうち，議案第２１号については教科書採択に係る案件のため，公開になじまないものと判断する。ついては同会議規則第１６条第１項により非公開にしたいと思うので皆さんにお諮りする。異議はないか。
委員一同　　―異議なし―

沖田委員長　それでは，議案第２１号および協議については非公開とする。

沖田委員長　それでは，議案第２１号平成２７年度使用三次市教科用図書採択地区教科書の採択についての説明を求める。

教育委員会事務局付課長　この議案は，平成２７年度に三次市内の小学校で使用する教科用図書について，選定委員からの答申を受けて審議し，採択するものである。選定委員会は，「三次市教科用図書採択地区の採択事務に関する規約」に基づき，調査員による教科書の専門的な調査研究を基に種目ごとにすべての教科書について審議を行い，その結果について理由を付して答申を行う。これを受け，適正かつ公正な採択を行うものである。

沖田委員長　教科書はそれぞれの教科の主たる教材として扱われるものである。市民の信頼に基づいて，慎重にかつしっかりと三次の子どもに適した教科書を採択していきたい。観点は選定資料に５つあるが，それに加えて，１点目は三次市独自のものであり学力調査における課題に対応できるものであること，２点目として小中一貫教育の推進の観点から中学校との教科の系統性があること，３点目に思考力・活用力を養う工夫が盛り込まれていること，の３点に留意しながら採択にのぞんでいきたい。

沖田委員長　まず，答申について選定委員長から説明を行っていただく。その後，教育委員会で審議し，採択決定していきたい。

選定委員長　教科用図書の採択に関わる答申書を提出させていただき，説明に入らせていただく。

＜選定委員長から沖田教育委員長に手交＞

選定委員長　教科書採択にかかる経過報告をする。５月３０日の教育委員会会議で「平成２７年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の三次市採択基本方針」を決定した。また，選定委員の委嘱を行った。６月６日に第１回選定委員会を開催した。参加者は７名。６月１２日に三次市教科用図書採択地区調査員３３名の委嘱を行った。６月１４日に第１回調査員会議を開催した。調査員に観点を示し，７月２３日までに報告書を提出するように説明をした。経過報告の資料中の表は各調査員会が開催した日を示している。７月３１日に第２回選定委員会会議を開催し，調査研究の報告を受けた。８月５日に第３回選定委員会会議を開催し，調査報告を受けた内容を審議し，答申書を作成した。そして，本日，教育委員会会議で答申をし，採択を行っていただく。８月２９日には，採択結果を広島県教育委員会へ報告する予定である。９月１日に

は，県教育委員会が全採択地区の結果を一括公表する予定となっている。
お手元にある答申書をご覧いただきたい。これから，この答申書の各教科について説明させていただく。また，県教育委員会の選定資料があるので，1ページ目を見ていただきたい。選定の際の観点及び視点が示してある。観点１　基礎・基本の定着，観点２　学習方法の工夫，観点３　内容の構成・配列・分量，観点４　内容の表現・表記，観点５　言語活動の充実について。この５つの観点に基づいて，調査員が細かく調査を行った。選定委員会ではその報告を受けて，教科別に審議を行い答申としてまとめた。今回は，三次市の子どもの実態や課題を踏まえて選定している。特に，学力の実態に照らしてどうか，思考力・活用力についてどうかを重点に審議した。

沖田委員長　各教科について，採択をしていく。午前中に国語・書写，算数，休憩をはさんで図工，音楽を，残りを午後で行う。それでは国語を行う。

国語

選定委員　それでは，理由の１つ目から説明していく。三次市の課題として，多くの情報の中から読み取る力が弱いということがある。その点で理由に挙げている「読み取っていく時に学習の手引き的なものを基にしながら学習が進めやすいか」ということがポイントで挙げられる。学習につまずきが見られる子どもについても，自学習ができるか，考えやすくなっているかという部分もポイントになるのではないかと思い，選んだ。手引きについては，例えば，A社の６年生４２ページを見てほしい。「時計の時間とこころの時間」という文章だが，学習の手引き的な内容がある。上の段に「あなたはどう思ったか書こう」「どこに述べられているか」「くわしく読んで見方が変わったことはあるか」などイメージをもちやすいように示してある。４４ページには「たいせつ」という形で筆者の考えに対して自分の考えをもつことが書かれている。この点について，B社の４１ページでは，「イースター島になぜ森林はないのか」という説明文で事実と意見とを区別して筆者の考えを読むという明確な目標が示されている。ここも○△で示しながら進めてある。しかし，４２ページには，イメージし整理していく方法として図で表しているが，これは高度で子どもがイメージするには難しいと感じる。言葉の力やまとめできちんと押さえながら，筆者の考えを読み取っていく工夫はある。A社については，６年生に説明的文章「鳥獣戯画を読む」がある。A 社のみが「鳥獣戯画」を説明文として取り上げている。書くことの課題設定までの方法として，ブレ

ーンストーミングや考えを助ける図表，興味関心を引き出しながら考えを助けるようになっている。A 社の６年生８０ページには，ブレーンストーミングを用いて，友達といろんな考えを出しあうやり方があり，子ども達にとっても分かりやすい工夫がある。A 社６年生９２ページに「意見文を書こう」というのがある。ここには，課題解決的な学習の参考となる流れが示してある。いろいろな友達の意見があり，参考となる文章や感想がある。特徴的なのは資料の「平和の砦を築く」である。広島の原爆ドームが世界遺産になるという内容で，広島を取り上げたものである。他の教科書で広島をここまで取り上げたものはない。A 社と B 社について，多くの情報から読み取るという課題だが，資料を根拠に説明するという点で見ていく。A 社５年生１３８ページ「天気を予想する」と，B 社６年生９０ページ「資料を生かして呼びかけよう」は，関連付けて説明することを効果的に学習するものである。B 社では地球の温暖化について資料を基にしながら詳しく分かりやすく書いてある。この点は H 社も同様である。巻末資料について，A 社６年生２３７ページ，B 社２２３ページを見るとどちらも工夫されている。この資料は，各教科等に生かせるように考えられている。読むことの分量について，物語文や説明文がページ数としてどれだけあるかということでは，B 社，H 社，A 社が多い。中でも H 社が一番多かった。最初に申し上げた子ども達の現状，学習につまずきの見られる子どもの学習目標の持ち方，学んでいく力，小中を見越したという点で優れている。発展的な学習で巻末資料が充実しているのは，A 社である。

選定委員　続いて，書写について説明する。B 社は版が横広だが，他は同じサイズとなっている。A 社６年生２～５ページを見てほしい。まとめが工夫されている。各社それぞれポイントは整理されている。その中でも A 社は大筆，小筆，鉛筆を，写真と持ち方を用いていろいろな角度から説明してあり，細かい配慮がある。B 社では２～７ページにあたる。子どもの視点から見たとき分かりやすさを追及しているのは A 社である。日常生活で書く場面を想定というところでは，A 社４年生３４ページに手紙を書くことが掲載されており，ポイントが赤で書いてあり工夫されている。どの会社もはがきの書き方について扱われているが，A 社が一段踏み込んでいる。硬筆の分量では A 社が一番多く，次が B 社。毛筆の入門期指導では，A 社３年生２ページ，B 社２ページに姿勢，用具の使い方，持ち方がある。A 社は，良い例も悪い例も示している。

また，力の入れ方はイラストを使うなどしてあり，分かりやすい。他社については穂先を示しているが，A 社は見開きで見本があるのでより分かりやすい。B 社も見開きではあるが，A 社の方が分かりやすい。B 社やC 社は１・２年生の入門期にできたらシールを貼るというところがある。他社でも自己評価するというのはあった。国語・書写ともに A 社として答申をしているが，漢字が出てくる順番も同じなのでスムーズだと考える。以上である。

小根森委員　国語について，１・２年生についてはどうか。

選定委員　選定資料をもとに特徴を挙げると，全ての学年にわたってコンセプトをもっているように感じる。

土井委員　平和教材の扱いはいかがか。

選定委員　各社ある。

沖田委員長　例えば３・４年生ではどうか。

選定委員　３年生は「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」がある。

児玉委員（教育長）　２点教えてほしい。１つは，学習につまずきが見られる子ども達に力をつけるというところがあったが，発展させていきたいこと，自学習，特に国語ではどういう点を意識しているか。A 社はどうか。もう１つは，子ども達のノート指導についてどういうつながりになっているか，どう意識されているか。

選定委員　最初の点の発展については，A 社６年生２３８ページに「たいせつ」のまとめがあり，学習後に教科書の何ページでどんな内容をしたかが分かる。これをもとにやってみようと発展的なものにつなげていける。ノート指導については，２６０ページにあるような図表をノートに表して考えるというものがある。書写の方では，発展という点では，A 社６年生３６ページにノートの取り方がある。ポイントがよく分かるように整理してある。今後，若い先生が増える中で，A 社は指導内容が明確である。手引きを迷いなく活用できるという部分は若い層の増加に対応していると思う。

沖田委員長　ローマ字については，どうか。

選定委員　差はない。

沖田委員長　ローマ字は何年生で出てくるか。

選定委員　A 社では３年生上で基本的なことを学び，３年生下でコンピュータのローマ字入力，４年生上でローマ字の表がある。B 社では３年生上にローマ字の書き方，３年生下で表があり，４年生では上下ともに出てくる。

選定委員　先ほどの件，平和教材については，B 社は４年生巻末に「一つの花」と「世

界一美しい村」がある。A 社は単元として３年生に「ちいちゃんのかげおくり」がある。

土井委員　巻末となると指導者によって扱いが違うのではないか。

選定委員　巻末は読み物資料として扱われやすい。

藤原委員　A 社は子どもに分かりやすいと感じた。１年生はひらがなから入るが，漢字に入っていくのはA社では１１６ページである。B社では１年生の上で「山」が最初に出てきて，「漢字の話」からスタートしている。

選定委員　A 社の方は「漢字の話」というのがあり，漢字の学習に慣れたところで，形に入っている。B社は先に，「形」を意識させて漢字の学習に入る。ローマ字にも同じような傾向がある。教科書会社の意図が表れている。

沖田委員長　一概にどちらがベターと言い切れない部分がある。

土井委員　物語文のしっかりしたものが入っているのは。

選定委員　説明的文章はおおよそ学期に１回程度，物語文は若干多くなっている。それぞれ目的に応じて文章のパターンが違う。指導事項に則って様々な形態の文章がある。

沖田委員長　三次の子どもは読み取る力が弱いため，それに対応していくという説明があったが，読書へのいざないというところでは，どちらが優れているか。

選定委員　差はない。

沖田委員長　教科書が変わることによって授業が変わり，子どもにとってよいものにならなくてはならない。国語については，A社でよろしいか。

委員一同　―承認―

沖田委員長　書写については，いかがか。

小根森委員　A社は高学年になっても硬筆がたくさんあるように思うが。

教育委員会事務局付課長　新しい学習指導要領では，実生活では活用する力が求められている。毛筆の指導の時にも硬筆を活用することにより，つくりが分かるといった形にしている。手紙を書く際にも，ここでは毛筆をなど，生活に即しての内容がある。

児玉委員（教育長）　このように，書く姿勢，筆の持ち方，運びなど徹底していることが，高校では姿勢がよくない場面も見た。教科書にあるように，こういう形で徹底し，日常生活では手紙やはがきを書くことに関連させていくのはよい。

沖田委員長　同感である。姿勢，始筆，運筆，終筆が分かりやすい。

小根森委員　熊野町は，外部の先生も指導に来られる。

教育委員会事務局付課長　学校によっては，書道の講師に入っていただいている。効果があることも聞

いている。

藤原委員　小さい字を書く子が多い。一字一字を丁寧に大事に書くことをしっかり教えることが大切である。パソコンが普及して書くことが少ないが，子ども達にそのことを教えてほしい。

沖田委員長　採択にうつる。書写は，A 社でよろしいか。

委員一同　―承認―

算数

選定委員　どの会社も問題解決的な学習，算数的活動，活用する力，自学自習等を意識して考えられていた。その中で，特に意識し，教科書に表れていたのが B 社である。B 社の理由について説明する。各学力調査のつまずきに対応した工夫がある点について，三次市の児童生徒の実態では，活用する力，学習意欲，自学自習の力が低い。４年生は折れ線グラフが毎年低い。これについて，例えば，B 社の折れ線グラフの扱いを見ると，第１単元で理科の気温の学習との関連を図っている。D 社は，第３単元になっており，気温の学習に間に合わない。また，比例の問題について，三次は正答率が大変低かった。比例について，B 社は単元化しているが，D 社は体積の単元の中で扱われている。２年生の「時刻と時間」は，子どもたちにとって大変難しい学習であるが，D 社は最初の単元に配置している。B 社は７単元目にある。５年生上１２２ページに「補充の問題」がある。青色で示されているのは標準的な問題，黄色で示されているのは発展的な問題と，個に応じた学習ができる工夫がある。５年生下１３８ページに「ふりかえりコーナー」があるが，２年生下以上の巻末にこのコーナーがある。既習を振り返る際，ポイントが分かりやすく示してあり，使いやすい。三良坂小学校は同じようなものを「算数のかぎ」として使っており，学力が伸びた一因になっている。それに近いものである。学習したことを振り返る「索引」が全学年にある。下巻には，下巻のみならず上巻分のページ数も示してある。自分で調べたり，振り返ったりすることができる。これは D 社にはない。C 社はその巻分のみの索引となっている。５年生上１９ページを見ていただきたい。前半は板書等も示しながら授業での学び方が掲載されている。先生の発問や子ども達の意見も掲載し，授業が展開する形となっている。後半は，見開きでノート例が示されている。前半の子どもたちの意見をノート内に友だちの意見として記述してある。授業と

ノートをセットにして示しており，大変分かりやすい。このノート例は全学年にあり，児童の正答率が低い問題，記述問題を挙げている。実生活に活用できる力，ＰＩＳＡ型読解力を意識した「算数の目でみてみよう」がある。５年生上１１８ページを見ていただくと，いろいろな資料が示してある。問題に適した資料を自分で選択して説明するという，活用する力の育成をねらった問題である。これに該当する問題はＤ社にもある。目次を見ていただくと，その単元の「前の学習」が示してある。また，「後の学習」も示してあり，系統性が分かりやすい。このような系統が載っているのはＢ社のみで，他社は「前の学習」はあるが，「後の学習」はない。

次に，Ｄ社の理由を説明する。キャラクターが複数あり，主に「えんぴつくん」が，いろいろなページに出てくる。これが課題解決の手掛かりとなっている。２年生上２ページに，学び方を示した「教科書の使い方」がある。また，４ページ「学習の進め方」があるが，これが２年生以上の上巻にある。Ｂ社にも学習の進め方はある。２年生上５８ページを見ていただくと，「考えを広げよう，深めよう」として「かくれた数はいくつ」という文章題がある。これは，特設の文章題を掲載したもので，思考力を育成することにつながる。５年生２５８ページを見ていただくと，算数でよく使う考え方として，にている，きまりなど文章で考え方を示してある。これは，数学的な見方や考え方を身に付けさせることつながる。４年生下５６ページを見ていただくと長文が掲載されている。必要な情報を選択し，読み取るという学習となっている。活用する力を意識した学習である。２年生下１１０ページを見ていただくと，既習事項を活用した，発展的な問題がある。Ｂ社にも３年生以上に「おもしろ問題にチャレンジ」がある。

以上，Ｂ社とＤ社で比べたが，三次市の児童生徒の実態に合ったものを考えるとＢ社が望ましいということで答申をさせていただく。

土井委員　　１年生の導入部分はどうなっているか。

選定委員　　Ｄ社１年生４・５ページに，絵に合わせてブロックを置くというものがある。Ｂ社は，線でつなぐ方法の後，ブロックを置く方法となっている。

児玉委員（教育長）　確かにＢ社は全国・県・市の学力調査の分析もされているが，Ｂ社とＤ社の学校格差の対応という点で，どちらが対応できていると考えられるか。

選定委員　　Ｂ社だと考える。つまずきやすい問題の学び方が授業の流れに沿って示されていること，その授業とノート例がセットで全学年に示されていること。ま

た，標準と発展と２種類の問題があることなど，対応できると考えられる。

児玉委員（教育長）　折れ線グラフなど，今回は理科の気温の学習との関連があったが。

選定委員　理科の教科書をどの会社のものを選んでも，気温の前に学習ができるようになっている。

小根森委員　D 社の「よみとる算数」というのは，すごくよい。これに対応するものは B 社にあるか。

選定委員　B 社では，「算数の目で見てみよう」がある。５年下にもグラフから必要な情報を読み取るというものがある。学力調査の問題によく出題される。

沖田委員長　三次市の児童には，国語の読み取る力が弱いことに関連して文章題にも弱さがある。算数だけでできる話ではない。

小根森委員　D 社は低学年からある。

選定委員　B 社では低学年に，５・６年生の比例，中学生の関数が弱いことを受けて，「もとの数」，数直線の中に「もとの数」を意識させる工夫が見られた。D 社の穴埋め式で考えさせる部分が多い点については委員の中でも議論になった。

沖田委員長　虫食いをどう考えるかということか。

児玉委員（教育長）　D 社と B 社。具体的に活用の問題の分量はどうか。

選定委員　県選定資料６８ページに，発展的な問題の数が掲載されている。

小根森委員　低学年は D 社が多い。

沖田委員長　B 社は低学年はゼロだが，いかがか。低学年から意識して鍛えていくのがよいのか。中学年からしていくのがよいのか。三次の子どもの実態としてどうか。

選定委員　三次市の１年生では，あまり差はない。しかし，３年生くらいから学力差が出てくる。

土井委員　B 社は，１年生の導入期を丁寧に扱っている。１年生上の数を意識させることについて，B 社の方が時間をかけている。数の合成・分解の内容。この発達段階では，くどいほどやってほしい内容である。導入期で算数嫌いにならないためには，B 社のように丁寧な方がよい。

小根森委員　三次の子どもの実態から考えると，B 社の方が三次の子どもに合っている。

藤原委員　小中一貫の考えでいうと，中学校の数学が気になる。つながりはどうか。D 社には中学校を意識した問題があるが，B 社にはあるか。

選定委員　B 社も巻末にある。中学校を意識した問題はどの教科書会社にもある。B 社では，中学校体験入学コースが２０９ページからある。

沖田委員長　台形が今回の学習指導要領で新しくなっている。台形の求め方について，D 社は２通りの考え方，B 社は３通りの考え方，C 社は４通りの考え方を載せている。様々な考え方が載っているのがよいのか。

選定委員　出来るだけ多く違う考え方を出すように求め，無理やり出させるのはどうかと考える。指導する際には，子どもたちが出した考え方の中から，一番便利で速い考え方を公式へとつなげていくことが多い。

沖田委員長　ケースバイケースか。県選定資料の６１ページを見ると，D 社だけが方眼を使ってやっていない。これについてはどう考えるか。

選定委員　学力の高い子であるとできるが，難しいと考える。

沖田委員長　B 社を採択するということで異議はないか。

委員一同　―異議なし―

図工

選定委員　E 社から説明する。５・６年生下を見てほしい。目次の右下に図工で大切にしたいことを３つの力としてマークと言葉で示している。８ページには，この３つの力の１つがマークで示してある。これは，この題材で育てたい力である。９ページの右下には，学習の振り返りをする際の観点が４つ示してある。児童が目標に沿った自分の学びを振り返る視点となっており，これが全ての単元にある。一方，F 社では，５・６年生下８ページに，４つの観点でねらいがあり，主なねらいには下線がある。９ページには１行で振り返りがある。E 社に比べると，ねらいが明確でなく，あいまいになるのではという意見があった。このことから E 社が分かりやすいと言える。全学年に「ゆめをかたちに」として，夢を追い続ける作家を取り上げ，作品と共に紹介するページがあり，道徳的心情を養うことができる。F 社にも同様のページが５・６年上にある。全学年に「ひらめきコーナー」として，休憩時間などの短時間で取り組める紙工作を紹介するページや「形と色でショートチャレンジ」として，短時間で絵の発展的な指導をする題材がある。作品の説明では「作品名」「大きさ」「解説」があり，作品を３方向から見たり部分的に拡大したりした写真があり，分かりやすい。E 社と F 社で，具体的に確認していく。E 社５・６年生下２６・２７ページ，F 社５・６年生上４６・４７ページを見ていただきたい。同じように粘土を扱ったページであるが，E 社には，作品を大きく写した写真があり，その下にいろいろな方向から作品を見た写真が

掲載されている。また，作品名と大きさに併せて解説がある。F 社には，作品名と大きさ・材料を示してあるが，解説はない。E 社５・６年下３２～３４ページ，F 社５・６年生上４６・４７ページを見ていただきたい。どちらも鑑賞の学習で，E 社は，指導者の発問とともに，たくさんの児童の意見を掲載しており，対話型鑑賞のイメージをもちやすい。一方，F 社では３人の子どもの意見があり，これが鑑賞の視点にはなっているが，対話型鑑賞のイメージは捉えにくい。

次に，F 社の理由について説明する。３・４年生下１２・１３ページを見ていただきたい。「きをつけよう」「かたづけ」のマークがあったり，クレパスのキャラクターがポイントを話したりしている部分がある。児童の興味・関心を高めることができる。各題材で扱う主な用具を，ページ横にマークで示している。必要な道具が一目で分かる。ほとんどの題材を見開き題材にしているため，児童にとって見やすく，また，指導しやすい。

沖田委員長　作品例はどちらが多いのか。

選定委員　　E 社５７１作品，F 社５９１作品である。全体でF 社が２０作品多い。

小根森委員　F 社の５・６年生には美術館の扱いがあるが，E 社にもあるか。

選定委員　　E 社の３・４年生上４０・４１ページに掲載されている。

小根森委員　子ども達には，美術館にも興味をもってもらいたい。

沖田委員長　モノづくりに力を入れていくことは大切である。小学校では，図画工作で主にモノづくりを行う。二つを比べたらどちらも同じくらいある。

選定委員　　調査員からは，版の大きさについて報告があった。E 社は版が大きいので，作品に迫力があり，細かなところもよく分かる。一方，F 社は版が小さいので，作品が小さな写真での掲載となる。そういった点からもE 社の方が分かりやすいと意見があった。

沖田委員長　E 社を採択するということで異議はないか。

委員一同　　―異議なし―

音楽

選定委員　　G 社の理由について説明する。全学年，「学習目標」の下に，目標達成のための支援となる活動文が書かれているため，学習中，常に意識させ，その文に立ち返りながら指導を展開することができる。どちらも３年生の教科書，G 社１６ページ，H 社１８ページのリコーダーの学習を比較しながら見ていた

だきたい。G 社では，息の強さを説明し，息の長さをステップ２，ステップ３と図解し，徐々にステップを踏みながら吹けるようにしている。H 社に比べると，子どもの目線での示し方で大変分かりやすい。また，G 社は，低いドの吹き方も指導しており，楽曲を１曲演奏できる楽しさを味わうことができる。１年生から６年生まで発達段階に沿った旋律づくりがあり，系統的な指導ができる。例えば，２年生でミラソの音を使った旋律づくり，３年生ではラドレ，４年生ではミソラドレのように，６年生ではハ長調の和音から音を選び旋律づくりをするといったようになっている。H 社は，「インターロッキングの音楽で楽しもう」や「じゅんかんコードから音楽をつくろう」など，専門性が高く，指導を十分にできないことが考えられる。トライアングルの奏法について，G 社１年生４８ページ，H 社１年生４０ページを見比べていただきたい。G 社はトライアングルの鳴らし方，持ち方が示してある。H 社は写真と説明が７１ページに掲載されている。同じページに示してある方が，子ども達には分かりやすい。３年生以上の巻末に音符や記号，音階，リコーダーの運指表等があり，既習内容を確認することができる。

次に，H 社の理由について説明する。表現活動の曲集「音楽ランド」に多くの曲があり，高学年になるにつれて曲数を増やしている。G 社は，低学年の方が多い。４～６年生では，巻頭に歌手や音楽家からのメッセージが掲載され，興味関心を高める工夫となっている。G 社は，滝廉太郎やベートーベンなど，作曲家を紹介したページがある。１～３年生 にクリアシート，４～６年生には折り込みページがあり，子ども達の意欲が高まると考えられる。マークを用いて，活動のポイントや既習へのリンクを紙面上で示している。一例として，６年生の目次を見ていただくと，鑑賞のマーク，日本の歌マークなどが，まとめて示してある。このようなマークは G 社にはない。以上で，２社の理由についての説明は終わるが，調査員からは，H 社については色彩がよく興味関心が高まるが，音楽でそこまで派手なものがいるのかという意見があった。基礎・基本をしっかり押さえるという面では，H 社は高度な内容があるので，先生方が指導しきれるのかという意見もあった。

沖田委員長　H 社のインターロッキング，じゅんかんコードはできないといけないのか。

選定委員　　旋律づくりについては学習指導要領の指導内容としてある。

沖田委員長　旋律づくりはしないといけないが，インターロッキングという方法を指導しないといけないということはない。今風のやり方ということか。学習の扱い

で勝っているのはＧ社。特にリコーダーにいたっては丁寧である。リコーダーは何年生まで使うのか。

選定委員　６年生まで使う。

沖田委員長　楽器で言えば，かなりのウエイトとなる。

藤原委員　Ｈ社２年生のクリアシートはどういう使い方をするのか。

選定委員　例えば，クリアシートをめくらず，先生が楽器の音を鳴らす。その音を聞いて，子どもに何の楽器かを想像させる。その後，クリアシートをめくり，楽器を確認するといった使い方ができる。

藤原委員　Ｇ 社は，裏表紙に「祭り」として楽器が掲載されている。地域の視点があってよい。

土井委員　Ｇ社の方が，子どもの視点に立って作られている。

小根森委員　先生の指導のしやすさが全く違う。Ｇ社の方がよい。

沖田委員長　より子どもの目線に立ったもの，先生の指導のしやすさという点から，Ｇ 社を採択するということで異議はないか。

委員一同　―異議なし―

沖田委員長　とりわけ，２番目に載っている会社については，国語，算数等についても，教科書をしっかり先生に研究していただきたい。他の教科書も参考にしながら授業を進めていただきたい。午前中の審議を終える。（１２：２０終了）

生活

選定委員　生活科に関わって答申をする。Ｂ 社について説明する。上巻の始めに「すたあとぶっく」として，学校生活で必要な習慣や技能例を写真で掲載し，幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図っている。幼児教育と小学校教育の具体的なつながりを意識している。幼小では，円滑な接続が課題としてある。「すたーとぶっく」では，一つ一つ丁寧に写真など掲載してあり大変分かりやすい。小１プロブレムの克服に役立つ。上巻４０・４１ページには，植物の「ほんとうのおおきさずかん」（原寸大図鑑）や，種から実になるまでの成長過程の写真など，児童の心を揺さぶる写真や挿絵が豊富にある。「ほんとうのおおきさずかん」のページを見ていただきたい。教科書からはみ出るような秋の色付いた葉の絵があり，実感を伴うことができる。上巻１６ページ「たんけんでみつけたことをはなそう」，下巻８０ページ「つたえるじゅんびをしよう」，「見つけたことを教え合おう」など上下巻を通して，児童の思考を促

し，気付きの質を高める言語活動を促す工夫がある。生活科では気付きの明確化と質を高めることが求められている。学習対象と関わることで関心を持つ，気付く，分かる，考える等明らかにする。「つたえるしゅんびをしよう」にあるように，どんな伝え方にしようからは，言葉を中心とした生活や出来事の交流が重視されている。身近な題材や体験的なことが表現活動に生かされている。６人の主人公が登場し，児童に「わたしもしてみたい」「わたしといっしょだ」という思いをもたせることで，活動への意欲を高め，気付きを促す工夫がある。この６人の主人公のつぶやきや投げかけで，児童の思考が促される。下巻５０ページの見開きの左ページの定位置に「もっとくふうしよう」など小単元名・活動のめあてが示してあり，児童に分かりやすくなっている。また，活動のめあては，指導者の発問に繋がるように工夫してある。さらに下巻の目次に，おもちゃづくりは緑色など一目で分かる工夫がある。巻末に「べんりてちょう」として，「道具の安全な使い方」や「安全な登下校」などを掲載し，生活上必要な技能を身につけるための工夫をしている。⑦について，上巻末に「ポケットずかん」があり，校外学習のヒントをまとめている。切り離して使うことも可能となっており，学習の手助けになると考えられる。

次に，D 社について説明する。別冊として「せいかつたんけんブック」があり，校外学習のヒントをまとめている。２ページ目には外での学習のための約束が書かれている。４ページ以降は活動や学習内容によって写真や生き物が掲載され，学習の手助けになる。単元内の「わくわく」マーク・「いきいき」マークと，巻末の「わくわくずかん」・「いきいきずかん」をリンクさせ，資料の参照ページを示している。単元導入の「わくわく」，主な活動の「いきいき」，交流活動の「つたえあおう」，広げて深める「ちゃれんじ」の４段階の構成にしている。上巻の表紙をめくると，色やキャラクターで自分の学習がどのような段階かが一目で分かるようになっている。

藤原委員　１・２年生で上下巻を使うのか。１年生は何ページまで学習するというのがあるのか。

選定委員　D 社の上巻の最後に「もうすぐ２年生」がある。上巻で１年の学習。最後に２年生につなげるようにしている。B 社も同じように上巻が１年生を意識して使うようにしてある。

沖田委員長　生活科というのは，総合や国語のように合科的に使うことが多いが，そのよ

うな例示があるのか。

選定委員　教科書には随所に出てくるが，観察したことをカードに書くようにしている。B 社１６ページ「探検で見つけたことをつたえよう」にカードが出ている。図工的な要素がある。鉛筆だけのウサギ，右の方には色彩の工夫がある。文字だけでなく，探検で学んだことを絵で表し伝えている。他の教科で学んだことを伝えることができる。また，７２・７３ページ「おもちゃをつくろう」では，図工で学んだ技能を生かすことができる。また，ここで学んだことを図工で生かすこともできる。他の単元でも使うことができる。

沖田委員長　D 社はどうか。

選定委員　上巻２２・２３ページ「たんけんしたことをみんなではなそう」では，見つけたカードを並べている。文字，絵，様々なカードがあり，このように伝えるという見本になっている。

沖田委員長　生活科というのは自立への基礎を養う教科である。教科書のどこに見られるか。

選定委員　上巻の「すたーとぶっく」での入門期の扱いに見られる。小１プロブレムでなかなかなじめない児童がおり，その状態が数か月続くことがある。そこをいかに克服していくかという意味では生活科の意味は大きい。２ページを見ると，自立の基礎を意識した配列がしてある。かかとをふまない。上履きは上の段，下履きは下の段と，細かいところまで書いてある。傘立てでは，名前が出席番号ごとに書いてあり，決められたところに入れることや，机の中に入れるきまりも書いてある。上の写真でランドセルをロッカーに入れようとしており，１年生の初めの１歩を大事にしてある。

児玉委員（教育長）　D 社には，「安全に気を付けて帰れるかな」や「いかのおすし」がある。B 社にはあるか。

選定委員　B 社上１１２・１１３ページに「安全に気を付けよう」や「いかのおすし」がある。外での約束がまとめてある。

土井委員　何に気を付けさせるか。ハサミを持って走るなど，よく子どもがすることである。

選定委員　付け加えて，B 社上巻１１２ページには，学校の安全について紹介がされている。

沖田委員長　上巻２０ページにもある。

藤原委員　町探検についてはどうか。

選定委員　B社には，２１～３２ページに「ドキドキわくわく町探検」がある。D社にも，６５ページに「秋の町をたんけんしよう」と同様のものがある。

沖田委員長　生活科はB社で異議はないか。

委員一同　―異議なし―

理科

選定委員　H 社の理由について説明する。４年生１９８ページを見ていただきたい。このように，巻末に「この１年間で学んだこと」を設け，１年間で学習した内容がまとめられている。他社と比較すると特徴がよくわかる。H 社では，理科用語をゴシック太字，イラスト，ノート例で示し，分かりやすい。１年間の学習について，何をどのような視点で振り返えればよいか工夫がしてある。実験・観察について，黒の破線で枠を設け，別の実験方法を示している。H社５年生２１ページの発芽の条件では，インゲン豆の代わりにとうもろこしを用いてもよいと黒の破線で示してある。これに対して，B 社５年生２１ページの発芽の条件には，インゲン豆はあるが，別の実験方法は示されていない。６年生巻末に「かんきょうミニずかん」を設け，生物愛護，環境保全，地球にやさしい技術などの内容を紹介している。２００ページに「かんきょうミニずかん」や「環境ストップ計画」がある。広島市のほたるについて示してあり，ビオトープ，持続可能な環境教育，地域を生かした環境の学習の充実が掲げられている。５年生１６５ページ「食塩」の問題解決について，２つの予想がしてある。問題解決の過程に沿ったノート記述例を示す中で，変える条件，同じにする条件を区分して条件制御の視点を示している。学習指導要領では，図や絵を用いて適切に表現することがある。１６５ページのノート例の活用で児童に力が付けられる。巻頭では，達人のメッセージと春の野原，花や虫，河川の航空写真，月面の資料を示し，自然に対する感性育む扱いをしている。３年生では養老孟司先生の五感を使って楽しもう，４年生では福岡先生，５年生では佐々木先生，６年生では川口先生のメッセージがある。理科では，自然に親しみ，科学的な態度を育てる必要がある。児童の姿や態度を尊重することがこの教科書の特徴である。６年生４・５ページを見ていただくと，学習の仕方について「予想しよう」「計画しよう」「結果から考えよう」等の問題解決の場面で話し合いの活動を設けている。学習指導要領には言語の育成として，記録，要約，説明といった学習活動に取り組

むことや観察実験の考察などの学習活動などが示されている。実験観察で得たことを基に学習を深めていくことが大切である。「確かめ」の場面及び「学んだことを使おう」の場面において，説明させたり，話し合いをさせたりする機会を設けている。５年生１８１ページの確かめのページの２に，「しばらくすると」と書いてある。その下に「溶かした食塩はどのようにしたらでてきますか」という問いや「どちらか食塩水かをなめずに調べるにはどうしたらいいか」という問いがある。確かめるための問いがあり，話し合いをさせるための工夫がある。

次に，B 社について理由を説明する。単元末に「たしかめよう」を設け，学習内容を振り返り，知識・技能の定着を図るようにしている。「理科の広場」を中心に環境に関わる資料を取り上げるとともに，全学年において環境の視点で単元を構成している。６年生１８１ページの環境問題について，スタートハウスを取り上げ，家の紹介をしている。単元の導入や学習を振り返る「たしかめよう」の中の「考えよう」で生活や社会と関連する事象を取り上げ，日常生活や社会との関連付けを図っている。４年生１３３ページでは，学んだことを生活と関連付けている。「さあ，理科の世界にとび出そう！」で学習の進め方の資料を掲載している。巻末には，学年の振り返り，学習の進め方「理科の調べ方を身につけよう」等の資料を掲載している。４年生２・３ページにも，学習の進め方が紹介してある。「説明しよう」というキーワードを用いて，学習した内容を活用して，事象について説明する場面を設定している。単元末の「たしかめよう」の場面において，説明の機会を設けている。

小根森委員　三次の子どもは，理科ではどこが弱いのか。

選定委員　学力調査では全国を上回っているが，説明したり学んだことを活用したり，関連付けたりすることが不得手である。

小根森委員　「確かめよう」に関しては，B 社がよいのでは。

選定委員　B 社もそうだが，巻末の単元の振り返りに特徴がある。特に，H 社は巻末までノートを活用しており，いかにノートを使っているのかが顕著に表れている。

沖田委員長　三次の子どもの実態は，５年生では，発芽の条件，光合成が，６年生では，実験あたりが不十分だと思うが，実験の様子は H 社では５８ページから，B 社では５５ページからさつまいもとインゲン豆と，やや違いがある。B 社は，でんぷんがどこに貯蔵されているかがあるが，H 社はそこまでない。５９ページにはでんぷんがどこにあるかがある。

選定委員　ミョウバンや食塩，温度などについて，詳しいのはＢ社である。

沖田委員長　２社の違いの決め手はどこか。

選定委員　特徴的な違いは，B 社は，単元の目標や理解を深める工夫がよい。複数が対話形式になっているのもよい。自己チェックもできる。モノづくりの事例も多い。モーターや振り子のおもちゃについては例が３つある。さらにノート記述例もある。子どもの思考を大切にし，まとめたことを生かして次につなげている。巻末には中学校へつなげる形で掲載している。H 社の巻末には，中学校で学ぶこと，第２分野が掲載されている。小中一貫９年間を意識している。H 社の単元配列は大変よい。

沖田委員長　現在使用している H 社の教科書に対する先生方の意見はどうか。現場の声はどうか。

児玉委員（教育長）　三次市の子どもは，理科の力がついていない。全国平均から見たらそうでもないが，力がついているとは言えない。現在の理科の教科書では力がついていないということではないか。学力をつけるためのポイントをどう考えるか。

教育委員会事務局付課長　現場から，H 社の教科書についての意見はない。今年度の基礎・基本定着状況調査では，月の動きについて答える問題の通過率が低かった。月はどちらに動くのかという問いがあった。右上に向かって動くと考えやすいが，問題をよく見ると南と書いてあった。部分的なところで判断し答えている。関連付けて考えるところに課題がある。

沖田委員長　広い意味での読解力がポイントである。現状は実験をする時間は十分取れているのか。教科書が変わっても授業が変わらないと意味がない。先生方が意識を変えて，教科書も見ていかないといけない。これは日本全体の課題である。

児玉委員（教育長）　疑問を持つことが大切である。その意味で，どちらの教科書がよいのか。県の選定資料７６ページを見ると，H 社よりもＢ社の方が実験観察が多くなっている。環境の記述も多くなっている。

選定委員　調査員が，理科への関心意欲を高める問いかけの工夫について調査している。昆虫などのすみかについて，H 社８０・８１ページと B 社４８・４９ページを比較すると，B 社は「どんなところにいるだろう」とあるが，H 社は「どのようなところに住んでいて何をたべているだろう」となっている。指導者が問いかける時，何を学んでいくかについて，H 社については，場所と食べ物と視点が２つある。学習者にとって，見通しが持てるととらえられる。

沖田委員長　すみかと食べ物の関連が必ずあるわけではない。

小根森委員　H社の方が図がよい。人体のページを見ると，H社の方が分かりやすい。興味が持てる。B社は漫画のようである。また，H社は実物大である。

児玉委員（教育長）　B社の３年生には，理科の調べ方やノートの書き方がある。H社はどうか。

選定委員　B 社の３年生１４８・１４９ページに記録カードやノートの書き方がある。大変詳しく，分かりやすい。H 社の３年生５２ページ，中ほどから下にノートの使い方がある。

沖田委員長　科学研究の仕方についてはどうか。

選定委員　H社は６８ページから掲載している。B社も５８ページから，同じく４ページで「私の研究」として掲載している。

沖田委員長　理科はH社で異議はないか。

委員一同　―承認―

家庭

選定委員　E社の答申の理由について説明する。初めて家庭科を学ぶ５年生では，基礎・基本がしっかり身に付くように題材を細かく構成・配列し，スモールステップで学習を積み上げる。続く６年生では，５年生の学習を基に計画的に工夫・応用しながら生活に生かしていく力を身に付ける。」というストーリー性のある題材の構成・配列になっている。E 社８ページ「はじめてみようクッキング」では，初めて調理実習をする５年生にとって大変分かりやすいものになっており，内容を具体的に示している。スモールステップで学習が進むようになっている。県の選定資料１３８ページを見ると，題材を細かく配列していることが分かる。ＡＢＣＤの領域を関連付けた内容になっており，ストーリー性がある。また，２５ページ「片づけよう」を見ていただくと，最終的に資源を再利用するという流れになっている。単元が，７４ページの「掃除」にも繋がっており，ストーリー性がある。実習と製作の仕上げに「できたかな」を１５箇所設け，どのような技能が身に付いたかを自己評価することができる。１３ページ右下に「できたかな」とあり，自分でできたかどうかを□にチェックできるようになっている。学習のめあてとそれに対応したふり返りがある。ふり返りはチェック形式になっており，内容が具体的である。１７ページを見ていただくと，学習のめあてに対応して具体的に振り返ることができる内容になっていることが分かる。基礎から応用へ発達段階に応じ

て内容が系統的に配列されており，４つの領域を関連付けた学習内容を展開している。見開きページ，誕生してから５年生，５年生から６年生，６年生から将来という学習のイメージを捉えさせることができる。６４ページでは，５年生の学習を振り返り，６年生の学習の見通しを持つ工夫がある。実践化を促す工夫として，「チャレンジコーナー」を例示している。３３ページを見ると，発展的にチャレンジできるような内容が設けてある。写真も豊富で分かりやすい内容になっている。

次に，B 社の答申の理由について説明する。全題材が「１　見つめよう」「２　計画しよう・活動しよう」「３　生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」という３ステップで構成され，パターン化されている。１２ページを見ていただくと，このように全ての単元がパターン化されているため分かりやすく，スムーズに学習が進んでいく。基礎的・基本的な知識技能のポイントをまとめた「いつも確かめよう」を１３箇所設けている。巻末の拡大版では，実物大の作業場面の写真を掲載し，実際に手を載せてシミュレーションができる工夫がある。１３ページ「いつも確かめよう」や巻末１１４ページを見ていただくと，大きな写真や実物大の写真もあり，大変分かりやすい。学習のめあてとそれに対応した振り返りが工夫され，問題解決学習が展開できるようになっている。１３・１４ページ「ふりかえろう」では，単元の最初にめあてを示し，小単元ごとに振り返るポイントが載っている。

土井委員　E 社の特によかったところはどこか。

選定委員　B 社は，そのページで完結する。１．２．３のステップで進んでいく良さはあるが，E 社はストーリー性がある。

沖田委員長　中学校に向けて，子どもの目線に立って考えたとき，包丁の使い方で比べると丁寧に記述しているのは E 社であり，片付けのところまでを丁寧に具体的に記述してある。B 社はあまりにも少なく，差がついていることから，指導者側にとっても E 社が分かりやすい。

沖田委員長　食育の記述はあるか。学習指導要領には食育に触れているところがあるが。

選定委員　バランスのよい食事，規則正しい生活について学ぶ単元がある。

小根森委員　赤・黄・緑の食品群が何に当たるのかが，詳しく載っているのは E 社か。

選定委員　B 社は，本文中に簡単なものがある。E 社は，本文中にもあるが巻末に詳しい表としてある。

沖田委員長　衣服の入り口である「玉結び」と「玉止め」の内容については，B 社２０ペ

ージとＥ社１８ページにあるが，差は無い。

小根森委員　書き込めるところはＢ社がいいが，その他はＥ社がいい。

藤原委員　Ｂ 社は，大きな写真，実際の大きさで掲載されているのはいいが，その他ではＥ社がよい。

沖田委員長　家庭科はＥ社を採択するということで異議はないか。

委員一同　―異議なし―

保健

選定委員　Ｂ 社の答申の理由について説明する。１単位の時間の内容を見開きで構成しており，児童にとって分かりやすく，また，指導者にとっては問題解決型の学習を進めやすい。基本的に見開きで１単元が構成されており分かりやすい。冒頭に「学習課題」を明示し，「学習活動」として「話し合ってみよう」「振り返ってみよう」「考えてみよう」「活用して深めよう」等の活動を明記し，学習の流れと活動内容を示している。６ページを見ていただくと，「学習課題」が左上に示してあり，その課題に沿って学習が流れており，大変分かりやすくなっている。「つなげよう」を設け，保健の他学年での学習内容や，他教科等との関連を示している。３・４年生１０ページ「部屋の明るさの学習」が３年生の理科の学習とつながっていることが「つなげよう」の記述から一目で分かる。５・６年生２３ページの「つなげよう」には５年生社会科との関連があることが分かる。このように，他学年・他教科との関連を示してある。各章末に「広げよう」として資料ページを設け，本文に関連する資料を豊富に掲載している。５・６年生４８ページには関連する資料が掲載されている。「まめちしき」では，知っておくと役立つことを掲載している。３・４年生１１ページを見ていただくと，「まめちしき」があるが，このように知っておくことを役立つことを細やかに記載している。３・４年生の教科書の目次には５・６年生の学習内容，５・６年生の目次には３・４年生の学習内容が掲載されており，見通しを持たせることができる。Ｉ社にはない。目次を見ていただくと，３・４年生にも，５・６年生にも学習のつながりが明記してある。図表・挿絵・写真は，色彩がやさしく鮮明であり，内容を視覚的に捉えやすい。どのページを開いていただいても，色彩や色合いが優しく鮮明である。

次に，Ｉ社の答申の理由について説明する。Ａ４判と大判であるため，文字

や資料が大変見やすい。大きいというメリットを生かしている。図解やグラフなどの色遣いが鮮やかであり，特に写真は細かいところまでよく分かる。版が大きいため，写真が大きく分かりやすい。知ってほしい用語を「ことば」として解説している。５・６年生３３ページ「ことば」を見ていただくと，知ってほしい用語を詳しく記述している。「おうちで」「ちいきで」を設け，家庭や地域で確かめたい内容について掲載している。５・６年生２５ページ「おうちで確かめてみましょう」，４３ページ「ちいきで」のように，日常生活の中で確かめるページがある。「かがくの目」として，肉眼では「見えないものを見える化」した資料を随所に掲載している。版が大きいことを生かしている。３・４年生１０ページに「身の回りの清潔」があるが，かがくの目ということで顕微鏡写真が載っている。５・６年生３１ページにも病原菌の顕微鏡写真が載っている。

沖田委員長　特に５・６年生は思春期であり，心の発達は大切な内容である。B 社では，２ページから１０ページ，Ｉ社では４ページから１４ページに掲載されている。いじめなどの問題も出ているが，ラインなどの問題はどの内容になるのか。

教育委員会事務局付課長　道徳や特活，社会などがある。

沖田委員長　３・４年生で８時間，５・６年で１６時間。年間の学習時間を見たときノートは必要か。ノートを別に設ける必要はあるのか。

選定委員　１時間扱いであるため，ノートというより，教科書の記入欄を使って指導をしているのが現状である。記入欄は，どちらの社にも準備してあり差はない。

沖田委員長　版が大きいＩ社は，レイアウトはすっきりしている。

土井委員　書くことが多いのは，B 社。

沖田委員長　保健の内容で言うと，三次の子どもたちの課題は何か。

選定委員　生活習慣だと考える。

沖田委員長　その点でいうと，２社はどうなのか。

選定委員　保健の１時間だけでは指導は難しく，家庭科や生活指導も含めて指導しいく必要がある。

沖田委員長　保健の教科書ではどうか。「早寝・早起き・朝ごはん」という言葉は出てこないのか。

選定委員　どちらにも「早寝・早起き・朝ごはん」の言葉は出てくる。

土井委員　Ｉ社はカラフルすぎて疲れる感じがある。

小根森委員　若い子にはどうなのか。よいのかもしれない。

選定委員　選定委員会では，たくさんの情報が載り過ぎていて，集中できないという意見もあった。

沖田委員長　選定委員が言ったように，保健が１時間扱いということを考えると，他教科等との関連を視点に考えたときにどうかというのも，大切な視点かもしれない。

沖田委員長　大判がいいという意見もあるため，決めかねる。参考となる意見はあるか。

選定委員　喫煙・薬物の問題でいうと，Ｉ社４２・４３ページ，B 社４０・４１ページを見ていただくと，写真等を使って視覚的に分かりやすいのはＩ社である。

沖田委員長　問題提示の仕方も違う。ここだけ見ると，大判が分かりやすい気もする。

選定委員　Ｉ社は，確かに写真が多いし分かりやすいが，目がチカチカする感じがする。ずっと見ていて文字が読みやすいのはＢ社である。

土井委員　文字の書体にもよる。B 社は同じ書体で統一していて見やすい。Ｉ社は，いろいろな書体が用いてある。

児玉委員（教育長）　「自然災害に備える」では，Ｉ社は，自分で自分を守る自助・共助・公助，B 社は，事例はあるが災害に対する教えがない。Ｉ社の方がよいのではないか。

沖田委員長　写真だから迫力はある。だが，避難方法等のことは詳しくない。

小根森委員　自助・共助・公助という言葉は大切な言葉である。

教育委員会事務局付課長　学習指導要領では，けがの予防を扱うことになっている。

沖田委員長　発展的な内容であるため，重きを置かなくてもよいということになる。

沖田委員長　選定委員，決め手はあるか。

選定委員　Ｉ社は，版が大きいというメリットがあるが，授業する指導者，あるいは学習する児童にとっては，イラストもコンパクトにまとまっているＢ社が望ましいと考える。

沖田委員長　保健については，Ｂ社で異議はないか。

委員一同　―異議なし―

社会

選定委員　Ｂ社の答申の理由から説明する。小単元の学習課題が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という配列で提示されており，社会科の問題解決の流れにそった学習展開を促すようになっている。５年生上２０ページを見ていただくと，単元の始まりに「つかむ」とあり学習課題をつかませ，次のページか

ら「調べる」となり，何ページか調べ学習がある。そして，「まとめる」ページがある。ここでは，学習問題の確認ができるように，学習課題が再度示されている。そして，「生かす」として学びを深めたり，広げたりするページへとつながっている。学習上重要なキーワードを「ことば」として示し，学習内容の定着を図ることができる。全ての小単元の最後に，単元の学習で出てきた「ことば」の一覧を提示し，学習をまとめたり，自分の考えを説明したりする言語活動に活用できるようになっている。これについては，５年生上８０ページを見ていただきたい。「ことば」として，１ページごとに大切な言葉が示してある。単元のまとめの段階には９０ページのようにまとめてあり，学んだことを自分の言葉でまとめたり，活用できたりするようになっている。学習したことを生かして社会的な事柄に参画したり，提案・発言したりする学習場面を多く例示している。６年生下３０ページを見ていただくと，「いかす」として，地域の公園づくりに対して自分たちが提案するという場面設定がしてある。様々な言語活動例が示されており，思考力・表現力を高めるだけでなく，お互いの考えを深め合うことができる。言語活動例が多く載っており，６年生上３８ページ新聞を書くや，絵カード，関係図に整理，４コマ漫画，社説，レポート，意見文を書く等，多様な活動が提示してある。５年生下７０ページ，６年生上４５ページ等，ノートにまとめるポイントが示されているなど，多くのノート例が示されているので児童の自主学習の参考となる。

次に，F 社の答申の理由について説明する。学習課題に対して「考えるヒント」を掲載し，児童の思考の手助けとなる。５年生上２１ページに「暮らしごよみ」があり，考える視点を与えている。各学年の最初に，教科書の仕組みについてまとめた「問いの旅」がある。５年生上２ページを見ていただくと，学習の道筋が示してある。中学年で地図帳を活用するページを特設している。３・４年生下２ページを見ていただきたい。「地図の使い方」として，見開きで詳しく紹介している。

選定委員　続いて，地図について答申の理由を説明させていただく。２社で，かなり議論があった。資料としての活用場面を考えてB 社がよりよいであろうという答申になった。

B 社から説明させていただく。Ａ４判であり，広範囲を紙面に収めており，見やすい。中国地方の掲載されているページを比べてみる。B 社２４ページ，

Ｊ社２３・２４ページを見ていただくと，B 社では大版なので隠岐諸島など広範囲まで掲載されている。「日本と世界の自然」「日本の貿易」等の資料が多色刷りでの掲載になっているため，大変分かりやすい。B 社７３・７４ページ，Ｊ社７２ページを見ていただくと，主な湖を見ると，色も鮮やかで湖の大きさも分かりやすい。貿易についても，各国の輸出入を円グラフで表したり，輸出入を色や矢印の大きさで表したりしており，分かりやすい。陸の高さや海の深さが９段階から１６段階の色分けで細かく表されている。土地利用についても商業地，住宅地など８種類で示している。５５ページを見ると，陸の高さの色分けが細かくしてあることが分かる。索引にチェック欄が設けられ，既習事項との関連付けができる。また，児童がチェック数の増加を一目で確認できるため，学習意欲が高まる。地名の掲載数が多く，日本の地名は約 2200 項目，世界の地名は 470 項目掲載されている。Ｊ社は，日本の地名は約 2000 項目，世界の地名は 260 項目となっている。７１ページ「日本の歴史と文化－世界文化遺産」で，昔の国名がついている食べ物や世界文化遺産等を写真やイラストで紹介している。３１・３２ページには，「奈良と京都の世界遺産」を詳しく紹介している。８９ページを見ていただくと，日本の自然災害について調べることができるように工夫している。首都東京，オリンピックとワールドカップ，食料生産等，多くの資料が掲載されており，児童の興味・関心を高めるとともに，発展的な学習につながる工夫となっている。こちらについては，６５ページから６８ページ，７７ページに資料として掲載されている。

次に，Ｊ社について説明する。地図の使い方を，方位，土地の高さ，地図記号，距離，縮尺の順に，６ページにわたり分かりやすく説明している。５ページから１０ページまで段階的に示されており分かりやすい。地方図の中に，２４ページのように広島市の原爆被害状況や，２７ページのように神戸市付近の災害への備え等，各地域の特徴的な内容を示している。三次市内の地名が多く掲載されているため，自分たちの地域と県全体，日本，世界と比較しながらの学習に適している。自分たちの住んでいる地域が載っており意欲が高まる。江戸時代の交通路地図や歴史の舞台となった場所の地図，年表が記載され，６年生の歴史学習にも活用できる。６９ページに江戸時代の交通路があるが，これはＢ社にはない。「地震・火山の災害と防災」のマップづくりで，地図のまとめ方のヒントや手順を示し，地図の作品例を掲載するなど，

活用の仕方が多く記載されている。６７・６８ページを見ていただくと，「トライ！」として，学び方や調べ方の簡単な作業を指示し，資料活用の仕方を示している。このような「トライ！」が随所にあり，考える視点を与えている。

小根森委員　Ｊ社には領土の範囲が書いてあるが，B 社にはあるか。

選定委員　１３ページにある。

小根森委員　Ｊ社は領空まで記載してあり，分かりやすい。

土井委員　Ｊ社には４８ページに沖縄島と択捉を縮尺で比較して書いてある。島の大きさがよく分かる。B 社にはない。

沖田委員長　中・高の学習指導要領の改訂の説明をしてほしい。

選定委員　平成２６年１月２６日の改訂の資料を見ていただきたい。下線部が新たに加わった部分である。「北方領土や竹島について，それぞれの位置と範囲を確認させるとともに，我が国の固有の領土であるが，それぞれ現在ロシア連邦と韓国によって不法に占拠されているため，北方領土についてはロシア連邦にその返還を求めていること，竹島については韓国に対して累次にわたり抗議を行っていることなどについて的確に扱い，我が国の領土・領域について理解を深めさせることも必要である。なお，尖閣諸島については，我が国の固有の領土であり，また現に我が国がこれを有効に支配しており，解決すべき領有権の問題は存在していないことを，その位置や範囲とともに理解させることが必要である」となった。小学校の現行では，北方領土のみの指導になっている。県の選定資料３６ページに各社の取り上げ方についてはまとめてある。各社，中・高の改訂の動きを受け，竹島，尖閣諸島について掲載している。また，資料の最終ページに添付しているように自然災害関係についても，中・高で改訂されたため，地図についてもその動向を受けて災害について記載されている。

沖田委員長　２社の地図については，この点，対応している。

沖田委員長　資料等が詳しく載っているのは B 社。自分たちの町が詳しく載っているのはＪ社。

沖田委員長　三次市内の修学旅行はどこへ行くのか。

選定委員　多くは，京都・奈良である。

土井委員　B 社には，京都や奈良の絵地図がある。

選定委員　選定委員会の中では，自分たちの町を見る時は県版を使うため，あまり地図

帳を使わないという意見が出た。

沖田委員長　かなりいい資料を使っている学校もあるが，地図で補完できるのか。それとも，不十分なのか。

選定委員　　ほとんどの学校が資料集を買って扱う。特に歴史的な内容については。

小根森委員　各地域のことがよく分かるのはＪ社である。

藤原委員　　Ｂ 社の方が地図は見やすい。紙の質，大判，索引いろいろな面から見やすいのはＢ社である。

沖田委員長　地図は４年生から使うのか。３年間使うのに丈夫さはどうか。

選定委員長　現在はＪ社を用いているが，丈夫さについては心配ない。

土井委員　　Ｂ 社は読み物としては面白い。Ｊ社は，三次がページの折り目にあるため見にくいが，Ｂ社は見えやすいところにある。

小根森委員　地名の多さはどうか。

選定委員　　地名数は，Ｂ社が多い。倍とまでは言わないが。

沖田委員長　世界遺産は載っているのか。

選定委員　　どちらも載っている。

沖田委員長　いろいろと出たが，挙手で決めてもよいか。

委員一同　　―挙手―

沖田委員長　それでは，Ｊ社を採択する。

委員一同　　―承認―

沖田委員長　引き続き，社会科の審議を行う。

沖田委員長　憲法の扱いはどうか。

選定委員　　Ｂ社６年生下４２ページ，Ｆ社６年生下２２ページを見ていただくと，憲法については同じように扱っている。

小根森委員　新聞の活用についてはどうか。

選定委員　　新聞の記事についてはどちらにもある。Ｂ社の方が資料は圧倒的に多い。Ｂ社には「新聞を読もう」というコーナーがある。

沖田委員長　具体的に紹介してほしい。

選定委員　　Ｂ社５年生下７２ページには新聞の記事が載っている。Ｆ社３・４年生下８２ページには福山市が出てくる。

選定委員　　広島の原爆については，Ｆ社は写真で少し，Ｂ社は大きく載せている。

沖田委員長　平和学習ということで，歴史学習の中でやっていくべきだ。資料については，

似たり寄ったりなのか。

選定委員　原爆の投下として広島を挙げているのは，２社ともに６年生上下で扱っている。しかし，F 社は６年生下で式典の写真掲載であるが，B 社は平和主義の学習から「深める」学習として見開き１ページで掲載をしている。資料の活用という点で言うと，B 社が意識をしている。

沖田委員長　都道府県名や県庁所在地を覚えるようになったが，その扱いはどうか。

選定委員　B 社３・４年生下１３０～１３５ページに都道府県名と県庁所在地が掲載されている。

小根森委員　F 社はあまり詳しくない。

土井委員　県庁所在地は書いてない。

選定委員　F 社は巻末にも塗り絵マップというのがある。

教育委員会事務局付課長　学習指導要領では，県名と位置の指導でよいと示されている。

沖田委員長　県庁所在地はいつ覚えるか。

選定委員　中学校の内容になっている。学習指導要領はベースとなるものであるため，B 社は発展的に扱っているのだと思われる。

児玉委員（教育長）　B社６年上１３１ページに，ナンキンを占領したことについて記載があるが，Ｆ社では，どのような記載になっているのか。

選定委員　F社では，６年生上１３６ページにナンキンの占領について記載されている。

沖田委員長　言語活動例が豊富という点で，B 社はいい。

小根森委員　調べるというページを見るとB 社がいい。

沖田委員長　社会科は，B 社を採択ということで異議はないか。

委員一同　―異議なし―

沖田委員長　以上で，採択を終了する。先生方には，教科書を用いて，授業力を向上させていただきたい。最後に確認をするが，採択した教科書だけでなく，他の教科書についても先生方にはしっかりと研究し，参考にしながらを授業を進めていただきたいと思う。

学校教育課長　採択の確認をする。

国語　光村図書，書写　光村図書，社会　東京書籍，地図　帝国書院，
算数　東京書籍，理科　教育出版，生活　東京書籍，音楽　教育芸術社，
図工　開隆堂出版，家庭科　開隆堂出版，保健　東京書籍

沖田委員長　これをもって本日の会議を終了する。